

平成22年度自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	学習と部活動の両立を図り、豊かな人間性を養い、地域や保護者に信頼されるとともに地域社会に貢献 する人材を育成する。	今年度の 重点目標	①学力の向上と進路保障 ②資格取得の一層の推進と充実 ③部活動をとおした人づくり ④地域産業経済界との連携の強化 ⑤創立百周年記念事業成功に向けての取組
-------------------	---	--------------	---

年 度 当 初						評価結果 (3)月			
評価項目	評価具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	主管	経過・達成状況	評価	改善方策	
1 学力の向上と進路保障	自ら学ぶ力の育成	・学ぶことの大切さ、基礎学力の大切さの理解と主体的に学習する意欲と態度の育成 ・家庭学習の習慣の確立 ・欠席、遅刻を減らし、規律ある生活習慣を確立する ・読書の習慣を身につける	・主体的に授業に取り組み、与えられた課題にもまじめに取り組む ・定期考査時以外にも家庭学習を継続的に行う ・理由のない遅刻者がなく、始業時には生徒が着席している ・月に1冊以上の読書ができる	・定期考査時及び平常時の家庭学習時間調査を実施する ・学習環境の整備・点検を行う。不用品の持ち込みを許さない指導をする ・遅刻者カードを導入する ・新入生に対し図書館オリエンテーションを実施する	教務 図書	・始業前に着席し、教科書やノートを準備して用意している者が80%以上である ・私語、居眠りなどせず、授業に真面目に取り組めるようになってきている ・鳥商デパート等を通して主体性をもった学びが育っている ・教室の整理整頓は少しずつできています。不用品持ち込みがみられる ・遅刻カードの導入で遅刻者が大きく減少した ・図書館オリエンテーションを実施した。全般的に朝読書も落ち着いて取組みができています	B	・進路目標や資格取得目標を明確にし、主体的学習につなげる ・鳥商デパートでの成功を目指し、課題解決型の学びを確立する ・教室の整理整頓など学習環境の整備を重点的に取り組む ・遅刻者カードの効果的活用を継続する ・朝読書の充実による読書習慣を確立する	
	授業の充実	・授業内容の充実を図り、授業の工夫・改善に取り組む ・新学習指導要領の研究	・「わかりやすい授業」「考える授業」「興味がわく授業」など授業改善に対する取組が少しずつできてきている ・進学、就職及び資格取得に向けた指導力の向上が必要 ・各教科での新学習指導要領の研究	・各教科で生徒実態を踏まえた授業改善の研究テーマを設定し、研究を行う ・全教科1回以上の研究授業を実施する ・実力テストのあり方を検討する ・新学習指導要領に関する資料提供と各教科での研究を推進する	教務	・教務を中心に授業改善の取組みを進め、Q-U調査や授業アンケートでその検証をしている ・授業改善をテーマとした県外視察や職員研修会を実施した	B	・授業評価アンケートを基にして各教科での授業改善をすすめる ・校外に向けた公開授業及び研究会を実施する ・現在実施している実力テストの効果的実施方法等を検討する	
	進路指導の充実	・進路目標の早期確立と事後評価 ・進路指導力の向上	・1年生から進路指導のシステム化を進めている ・進路目標と達成目標に対する中途での自己評価が十分でない ・専門高校の特色を生かした進路指導力の向上を目指している	・就職選考、大学入試に関する職員研修会を各学期に実施する ・全生徒に個人データファイルを準備し、活用を推進する ・小論文指導と面接指導を強化する ・全職員が求人情報収集を積極的に行う ・「進路だより」「企業訪問記」を発行する	進路	・進路LHR(先輩に聴く等)を通して、1、2年生で進路資料室を訪れる生徒が増えてきた ・3年生が難関に立ち向かい進路先を開拓した(東京電力、明治大学、鳥取看護専門学校など) ・企業の人事担当者を講師とした面接に関する職員研修、出版社職員による小論文職員研修を実施した ・進路指導用個人データファイルの活用が全学年に広まらなかった	A	・小論文委員会を中心に3年間を見据えた小論文指導の体系を国語科と連携し一層充実させる ・個人面接等生徒の進路希望について細やかな指導を行い、明確な進路意識を持たせる ・模擬試験の内容等を生徒の進路希望に合ったものに見直しを進める ・進路の手引きを活用しやすいものに改訂する	
	特別支援教育	・特別支援教育の推進	・特別支援教育委員会は設置されているが取組みは十分ではない	・生徒理解をすすめる ・特別支援教育課等と連携を進めるとともに、外部講師による教員研修会を実施する	保健	・特別支援教育委員会で本校の状況確認と本年度の計画と取組みの方向性を検討した ・外部講師による教職員研修会を2回実施し、発達障害に関する理解を深めた ・特別支援教育担当者が中学校を訪問し、その実態を研修した	C	・職員研修を継続して行うとともに、個々の生徒理解を進める	
2 資格取得の推進と充実	上位級への挑戦	・全商1級3種目以上合格に主体的に取り組む、高度な知識を身につける	・全商1級3種目以上合格をめざす取組が定着してきた	・全商検定1級3種目以上取得及び取得に向けた意欲を持たせる ・上記の取得者を80名以上とする ・難関資格試験への意欲を持たせ、挑戦させる	教務 商業	・1級3種目以上を取得しようとする意識がほぼ定着した ・今年度の1級3種目以上取得者は43名であり、昨年より減少したが個々の検定取得状況はほぼ目標を達成できた ・難関資格への挑戦は類型の特色ある授業や商業系部活動を通して行われた ・専門学校講師による検定直前講座や補充授業にも積極的に取り組んだ	B	・早期に個々の検定取得の計画をたてさせ、学年と商業科の連携した指導を進める ・教育課程を補う補習を実施する ・専門学校講師による上級資格取得対策講座を実施する	
	ビジネス実践力の育成	・検定取得で得た知識をもとに、社会で通用する実践力を養う	・類型の目標とする検定取得の時期が遅く、実務に役立つものとなり得ていない面がある ・体験的、経験的な学習による学びの深まりがややもの足りない	・授業の中で実践力、応用力を高める工夫をする ・社会人講師による授業と企業見学を実施する ・類型ごとのビジネス実践力となり得る授業・学校行事を研究する	教務 商業	・2年次での各類型ごとの1級2種目取得は目標に近いものが達成できた ・授業の中でビジネス実践力の育成を意識し、工夫をしているが、まだ努力を要する ・1年生からビジネスシーンを意識したビジネス基礎講座、ビジネス体験実習などを取組みしてきた	B	・地域の学識経験者、研究者、企業代表を構成員とした鳥商ネットワーク会議の意見を参考にし、本校の商業教育の充実を図る ・本校教育の集大成である鳥商デパートの一層の充実に向けて、外部講師活用やデパートの組織改革を行いビジネス実践力の向上を図る	
3 豊かな人間性を養う	基本的な生活習慣の確立	・挨拶の習慣化 ・時間厳守、5分前行動ができる ・好感度を与える身だしなみ	・ほとんどの生徒ができていますが、即戦力を求められる商業の専門高校としてはもの足りない	・全校生徒が明るく、元気でさわやかな挨拶ができる ・遅刻ゼロと五分前行動ができる ・面接試験に耐えうる正しい身だしなみを身につける	生活	・ほとんどの生徒が基本的な生活習慣が身につけていて、元気に登校し挨拶もよい ・時間を守ることを意識が向上し、朝の遅刻が大幅に減り、集会なども時間通り始まる ・大半の生徒の服装や頭髮については良い。学校全体として即戦力をめざす姿になってきた	B	・食事・睡眠アンケートを継続的に実施し、基本的な生活習慣の確立に力を入れる ・生徒会や規律委員が率先して挨拶、マナー向上に取り組む体制を整備する ・学校に対する帰属心を高め、誇りを持てる指導を進める	
	部活動の充実	・部活動における人格形成と人間力の育成 ・優勝をめざした練習と心身の練磨	・部活動の目的は人格形成と人間力の育成であるということが学校全体に浸透ししつつある。 ・部活動をととして外面・内面の向上につなげたい	・社会の一員として考え、行動できる力をつける ・授業や部活動など、生活のけじめをつける ・優勝をめざした取り組みの中で、チームワークや考えたり工夫したりする力等、有為な社会人としての資質を育む	生活	・部活動全員加入の取組みを実施する ・部活動に関する生徒の意識調査を実施する ・部室の一斉清掃の実施と、鍵管理の徹底 ・各種大会の表彰式・表彰伝達式を行う ・指導者研修を実施する	B	・部活動全入を推進する ・文化部、商業系部活動の取組みを一層充実させる ・部活活性化や部活動のあり方に関する職員研修会を実施する	
4 地域連携	地域連携	・保護者、地域へ積極的にPR活動をする ・中学生に対する情報発信を推進する ・継続的な地域からの学び	・「地域との連携」や「地域貢献」が単発的な取り組みになっている ・保護者、地域、中学生に対しPRが不足している ・社会貢献の取組が少ない	・体験入学、学校参観の充実 ・パンフレット「学校案内」の充実 ・ホームページの充実 ・地域から信頼され、愛される学校づくり	教務 総務 生活	・体験入学を改善、充実する ・「学校案内」を改訂する ・分掌、部活動などの情報をホームページで頻繁に更新する ・特色ある教育活動を地域広報に提供する ・地域貢献できるボランティア活動を実施する	B	・企業や地域と関わる取組みを企画していく ・学校として地域に貢献できるボランティアを企画していく	